

雲・桜・骨 内藤忠行写真展

2024年3月20日（水・祝）～5月19日（日）

ギャラリー桜林では2024年3月20日（水・祝）より、写真家内藤忠行の個展「雲・桜・骨 内藤忠行写真展」を開催致します。

内藤忠行は、1941年東京浅草生まれ、83歳。神奈川県在住。

日本を代表する写真家で「ジャズ」「アフリカ」「日本の庭園」「桜」などのシリーズを撮り、内藤の代表的な作品も少なくありません。特に「ジャズ」シリーズではマイルス・ディビスを被写体にライブやプライベートショットなどを撮影し、その時代の空気を感じさせるスナップ写真も多数残しています。

1985年にN.Yでバスキア、アンディ・ウォーホル、クレメンテの3人が同じ場所にいたところを撮影した貴重な作品は、フランス、ルイ・ヴィトン財団美術館「Fondation Louis Vuitton」（2023年4～8月）にて開催された「BASQUIAT×WARHOL展」の公式カタログに掲載されました。

また、日本の有名な寺社の庭園を撮影した「日本の庭園」シリーズでは、日本の風景の中にある静寂さを切り取った作品がJR東海のキャンペーンポスター「そうだ京都、行こう。」に起用され、また「桜」をグラフィカルに表現した抽象的な作品は内藤独自の大胆で繊細な世界観を表現し、その作品は高く評価され、東京都写真美術館に所蔵されています。

本展では、初公開を含めた着物を連想させる「T字型 12面シンメトリー」作品と、角館の桜、能など「桜」シリーズを中心として、近年「骸骨」、「雲」などを被写体とし「生と死、平和と愛、祈り」などの世界観を表現した作品も展示致します。

また、内藤の原点やキャリアを振り返りN.Y滞在初期の作品や、これまであまり展示することのなかった希少なスナップ写真やレコードジャケットなどに使用された作品も併せて展示いたします。

広告写真から独自の感性から生み出された作品まで、今なお挑戦と美の追求は留まることはありません。ぜひこの機会に皆様に内藤忠行の写真の世界をご高覧およびご紹介いただきますようお願い申し上げます。

雲・桜・骨 内藤忠行写真展

協力：Yu Harada

会期：2024年3月20日（水・祝）～5月19日（日）

開廊時間：10:00-16:00

休廊：毎週水曜日、3/26・4/16・4/30・5/7（但し、5/1は開廊）

※作品はオンラインで同時販売を致します。

入場無料

会場：ギャラリー桜林

〒309-1634 茨城県笠間市福原 2081 番 常陸国出雲大社境内桜林館 1F

Tel/Fax:0296-71-6700

お問い合わせ

担当：石橋・中野

Tel/Fax:0296-71-6700 e-mail:ohrin@izumotaisha.or.jp

Profile

内藤忠行（ないとうただゆき）

1941年、東京浅草生まれ。ジャズと出会いそのフィーリングとバイブレーションを映像化すべく写真家を志す。マイルス・デイヴィスなどオリジナルなスタイルを創造した天才ミュージシャンから学んだ表現方法を写真に応用し、精力的にコンサートライブを撮り続け、多数のレコードジャケットを手がける。本場のジャズシーンに接するうち、そのルーツであるアフリカへと導かれ、この大なる大地への愛と理解と感動を【アフリカの歌】などの作品集にて発表。アフリカへの旅を重ね、シマウマのモチーフを繊細かつ大胆に表現した【ZEBRA】においては、ストレートなカラー写真から、カラージュアソラリゼーション、多重画面などを駆使したシンメトリーな抽象表現までを自在に用い、「スピリチュアル」「モダン」「プリミティブ」の融合という、彼の写真に一貫して流れる特徴を確立させる。赤道直下の国々やアラスカ、ヒマラヤ周辺など異なる文化圏へ世界規模に取材し、観察と空想とジャズ的写真の冒険を繰り返すことにより生まれた膨大な作品群は、写真集、雑誌での発表にとどめることなく、映像、造形、テキスタイルなど多様に展開させていった。その後、そうした体験と眼差しに対比させるかのように自らのアイデンティティを追及。日本の美の象徴とも言うべき〈桜〉、〈庭〉というテーマに斬新に取り組む。アニミズムや曼荼羅と、日本人としての自然観と装飾性を結びつけた幻想的な桜の世界は、着物を連想させる「T字型 12面シンメトリー」の無限の奥行きの中に、上品で雅でありながらも妖艶な魔性を潜ませた【SAKURA-COSM】に結実する。四季折々の自然と感応し美を表出させる〈庭〉では、日本人の美的DNAの潜在を表現し、ADC賞を受賞したCD-ROM【京の庭】をはじめ高い評価を得る。静寂な庭に宇宙のリズムを感じ、それをフィルムに写し撮っていく過程で本能的に出会った、〈蓮〉という被写体を21世紀のスピリチュアルなキーワードとし、実存しない青い蓮の世界に「愛と平和」への祈りを込め発表した「Blue Lotus」シリーズは、その美しく幻想的な蒼い光に見る者を包み込むことにより、時空を越えた生命の普遍的なメッセージを発信することに成功している。新たな表現への欲求は留まることなく、「視覚と聴覚の相乗」をコンセプトにしたフォト・ユニット「PM-X」を主宰、様々なアーティストとのコラボレーションを意欲的に行っている。2005年、スワミナサン財団（「緑の革命の父」と謳われるスワミナサン博士が、貧困・飢餓を根本的に解決するため設立した財団）によるプロジェクトの一環、「モダン・マスターズ・オブ・フォトグラフィー／ジャパン」の12人の写真家の一人に選出され、その草の根的支援活動に賛同し「Blue Lotus」を寄贈。2022年 一般社団法人日本ジャズ音楽協会より「日本ジャズ会長賞」受賞（写真家では初受賞）。

出版

1970年 写真集「日野皓正の世界」サンケイ新聞出版局
1977年 写真集「NABESAN」泰流社
1980年 写真集「アフリカの旅」自主
1981年 写真集「地球風俗曼陀羅」神戸新聞事業社「毎日デザイン賞受賞」

レコード制作「MASAILAND」「DRY&WET」「NIGHT TRIP」
1982年 写真集「アフリカの歌」晶文社
1985年 レコード・CD制作「TIMELESS」ソニー

レコード・CD制作「ZEBRA」MGA
1988年 写真集「ZEBRA」情報センター出版局
1990年 写真集「SAKURA-COSM」扶桑社
1992年 写真集「わが心のアフリカ」ライアル・ワトソン共著 筑摩書店
1993年 ビデオ「脳の縞」Photohouse OM
1996年 CD-ROM「ZEBRA FANTASY」ハートランド
1997年 ハイビジョン監督「The SONG OF AFRICA」ソニー
1998年 CD-ROM「京の庭」デジタルログ“ニューヨーク ADC 銀賞受賞”

写真集「宇宙のかたち 日本の庭」世界文化社
2000年 CD-ROM「マンダラ・コスモロジー」デジタルログ“ニューヨーク ADC 銀賞受賞”
2001年 デジタルビデオ作品「ZEBRA」RESFEST2001

デジタル・フィルム・フェスティバル出展
2003年 写真集「色はことのは」未永蒼生共著 幻冬舎
2005年 写真集「BLUE LOTUS」評言社

コレクション

ZEBRA シリーズ：東京都写真美術館、川崎市民ミュージアム
桜シリーズ：東京都写真美術館
その他：個人所蔵多数

主な写真展

1990年 写真展「桜」（ラフォーレ原宿）
1997年 写真展「庭」（エキジビション・スペース）
2000年「モーリの色彩空間 part4『SABI』展」（青山スパイラルホール）
2001年 写真展「Japanese Garden」（BruneiGallery、ロンドン）
2002年「ミステリアス・ストライブ展」（INAX ギャラリー）
2006年 ART AT THE ROCKFACE 展（イギリス）出展
写真展「Blue Lotus」（上海蓮花画房）、写真展「Blue Lotus」（京セラ・コンタックスサロン）
007年 写真展「AFRICAN VIBRATION」（キャノン S タワー）
2008年 上海アートフェア「Blue Lotus」出展
2009年 写真展「OCTAVE_02」（TIME&STYLE MIDTOWN・TIME&STYLE HOME）
2016年 写真展「マイルスデイビス写真展 I loved Him Madly」（MITSUOKA 麻布ショールーム）
2018年 写真展「ある写真家の花見」（オリンパスギャラリー東京）
2020年 写真展「W3」（SYP Gallery）
2022年 内藤忠行&佐藤仁重 コラボレーション写真展「二人の写真家が見た NEW YORK × NEW YORK」（富士フィルムフォトサロン東京）
写真展「African 風雅」（MEDEL GALLERY SHU）
2023年 写真展「寒山拾得 Kanzan and Jittoku」（SYP Gallery）
写真展「写真の彼方」（Anicoremix Gallery）

内藤忠行公式サイト：<https://photohouseom.com>